

除草剤の秋期処理による省力化について

(園試・果樹部)

1. 背景とねらい

りんごわい化栽培では、樹の健全な生育維持のため、樹冠下の雑草を防除し清耕に維持することが必要で、昭和60～61年に各種除草剤を組合せ体系化した。この場合第1回目の処理は、開花期までには樹冠下を清耕に維持するため、5月上～中旬（草丈30cm以下）とした。しかし、この時期は、水稻など農繁多忙な時期であり、処理の遅れがみられる。

そこで、効果的処理について検討した結果、収穫後の秋期処理が翌年の6月上旬頃まで雑草を抑える等省力的使用法と考えられるので指導上の参考に供する。

2. 技術の内容

- 1) 使用する薬剤は茎葉処理型除草剤（吸収移行型、接触型）とする。
- 2) 散布時期は11月の収穫後から落葉前とする。
- 3) 翌年の第1回目の散布時期は、慣行の散布方法では開花期前であるが、秋期処理を行うことにより、6月上旬まで散布時期をのばすことが可能である。
- 4) 適応地域 県下全域

3. 指導上の留意点

- 1) 秋期処理に利用できる主な茎葉処理型除草剤を表－1に示す。

表－1 主な茎葉処理型除草剤の種類および散布方法

作業特性	農薬名	商品名	10a当り
			散布薬量／水量
茎葉吸収 移行型	グリサート液剤	ラウンドアップ	125～1,000 ml/50～100 l
			250 ml/25 l
		ボラリス	300～500 ml/25 l
接触型	ジクワット、ハ	ブリガロックSL	800～1,000 ml/100～150 l
	ラコト液剤	マイベット	
	ジクワット液剤	レグロックS	300～500 ml/100～150 l
	ビアラホス水溶剤	ハービーエース	500～1,000 ml/100～150 l
	グルメジネット液剤	バスタ	300～1,000 ml/100～150 l

4. 試験成績の概要

- 1) 試験年次及び場所
昭和62年～平成元年 岩手県園芸試験場圃場
- 2) 試験方法

表-2 試験区の構成

圃場条件	薬剤名	10a当り 薬量/水量	処理日
多年生雑草占有圃	グリホサート液剤	500ml/100l	昭和62年 11月10日
	ジクワット・ハラコート液剤	1,000ml/100l	
1年生雑草占優圃	グリホサート液剤	250ml/25l	昭和62年 11月7日
	ジクワット・ハラコート液剤	800ml/100l	
多年生, 1年生 雑草専有圃	グリホサート液剤	250ml/25l	昭和63年 11月7日
	ビアラホス水和剤	500g/100l	
	グルホシネート液剤	500ml/100l	
	ジクワット・ハラコート液剤	800ml/100l	

表-3 秋期処理による殺草効果(昭和63年秋処理)

薬剤名	10a当り 薬量/水量	草種名	処理後の殺草効果				
			11/10	11/25	2/20	3/29	4/19
グリホサート液剤	250g/25l	ハコハ	—	—	×	×	×
		クロハ	—	—	—	—	—
		ノホロキク	—	—	×	×	×
		スズメノカタビラ	—	—	—	×	×
		タネツケバナ	—	—	+	+	+
		オシロイバナ	—	—	×	×	×
		イヌガラシ	—	—	+	+	+
グルホシネート液剤	500ml/100l	ハコハ	—	+	×	×	×
		クロハ	—	+	—	—	—
		ノホロキク	—	+	×	×	×
		スズメノカタビラ	—	+	—	×	×
		タネツケバナ	—	+	×	×	×
		オシロイバナ	—	+	×	×	×
		イヌガラシ	—	+	×	×	×
ビアラホス水溶剤	500g/25l	ハコハ	—	+	×	×	×
		クロハ	—	+	—	—	—
		ノホロキク	—	+	×	×	×
		スズメノカタビラ	—	+	×	×	×
		タネツケバナ	—	+	+	+	+
		オシロイバナ	—	+	×	×	×
		イヌガラシ	—	+	—	—	—
ジクワット・ハラコート液剤	800ml/100l	ハコハ	—	×	×	×	×
		クロハ	+	+	+	+	+
		ノホロキク	+	+	×	×	×
		スズメノカタビラ	+	+	×	×	×
		タネツケバナ	+	+	+	+	+
		オシロイバナ	+	+	×	×	×
		イヌガラシ	+	+	—	—	—
無処理		ハコハ	—	—	+	+	+
		クロハ	—	—	+	+	+
		ノホロキク	—	—	+	+	+
		スズメノカタビラ	—	—	+	+	+
		タネツケバナ	—	—	+	+	+
		オシロイバナ	—	—	+	+	+
		イヌガラシ	—	—	+	+	+

殺草効果の基準

- 効果無し。
 ± 効果が認められる。
 + 効果が認められるが葉全体に及ばない。
 × 葉全体にみられるが、茎まで及ばない。
 × 葉、茎とも草全体に効果がみられる。
 × 株が枯死し、再生がみられない。

* 無処理区の+, —は,
 薬剤による殺草効果
 ではなく、雪、寒さで
 による葉の黄変等
 あるが、殺草効果の
 基準に合わせた。